

音の良いケーブルの長さ

ケーブルを切る際にどの長さで切れば音が良いのかという問題ですが、基本はブルーのウェーブ波長である0.15kaiser(157.5ミリ)毎に音の良いポイントがありますから、それを参考にして頂ければ音楽性豊かなサウンドを手に出るでしょう。

音楽エネルギーの空気の動きは波動から成り立っていて、山と谷を複雑に繰り返しながら”心地良く感じる音”と”不快な音”を同時に作ります。そこで問題となるのが、どのような条件が揃った時に私達が良い音と感じるのかという研究です。

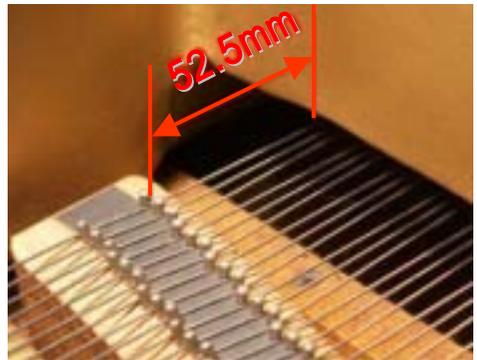
もうすでに、「電気的时间軸」の研究の中で、音のハーモニーの基本となる長さ1kaiser = 「105」センチという数字を発表しております。小さい波で「52.5」ミリ、大きい波でその3倍「157.5」ミリ毎に音の良い長さがあります。



音楽の根幹は1/20kaiser ?

ピアノという楽器の構造について色々勉強している時に、一番右にある88番目の鍵盤に張られた基音を成す弦の長さが平均で「52.5」ミリだと言う事を知ったのです。楽器の王様であるピアノの音の源をなすものが0.05kaiser(52.5ミリ)という事になります。

言い換えますと、音楽は1/20kaiserを基本にして成り立っていると考える事が出来ないでしょうか？。もちろんその倍の長さである1/10kaiser(105ミリ)が1オクターブ低い音になるのは言うまでもありません。



空間の時間軸の問題点と現象

1. スピーカーから発せられた「オリジナル音源波」がリスナーの背後の壁に当たって、反射波となって今度は「第2波のオリジナル音源波」とぶつかります。正面衝突した音のエネルギーは、この時点でかなり殺されてしまいます。
2. その反射波が再びスピーカーの背後の壁に当たって、今度はオリジナル音源波の「後追い波」となって、似たような音がかぶさってきますので、「悪玉」となって音を滲ませたり、濁らしてしまうのです。
3. 例えて言いますと、「後追い合唱」のように、この後追い波が「一小節遅れ」でキチンと追いかけてくれさえすれば、「波動が合って」今度は「善玉の残響」となるのです。
4. この重なり具合一つで、低・中・高のエネルギーバランスが複雑な複合状態となって、良くも悪くも”千変万化”するのです。
5. その部屋の空気の重なり具合や微妙なアンジュレーションによって、美しくも、力強い響きにもなるし、汚く、うるさい音にもなるものなのです。
6. すなわち、音とはスピーカーが出すのではなく、スピーカーと部屋との共同作業によって成り立つものなのです。その両者の育んだ部屋の響きとして私達は音楽の良否を感じるのです。
7. これは、「電気の流れ」とか「振動の流れ」よりも分かり易く、誰もが理解出来る現象です。
8. この「空間の時間軸」の「波動コントロール」無くして、音楽を音楽として感じる事はあり得ません。これは、調律の狂った楽器で演奏している状態と同じように考えて頂いていいでしょう。
9. 機材の良し悪しよりも、先ず最初にありきは「空間の時間軸の波動が揃うこと」です。その方が音楽として楽しめます。なおかつ、その上に機材の性能が良ければ申し分ありません。
10. ステレオで良い音がする条件は、「電気的时间軸」と「振動の時間軸」と「空間の時間軸」の3つの時間軸のかみ合いが重要なのです。
11. 私の研究に於いては、この3つの波動はすべてリンクしていて、音の良い長さの単位 "1kaiser" = 105の整数倍から成り立っています。

カイザーサウンド東京試聴室

〒135-0045

東京都江東区古石場2-14-1 ウェルタワー深川606

TEL 03-3643-1236 FAX 03-3643-1237

URL <http://www.rosenkranz-jp.com>

カイザーサウンド広島

〒733-0003

広島市西区三篠町2-17-7

TEL&FAX 082-230-3456

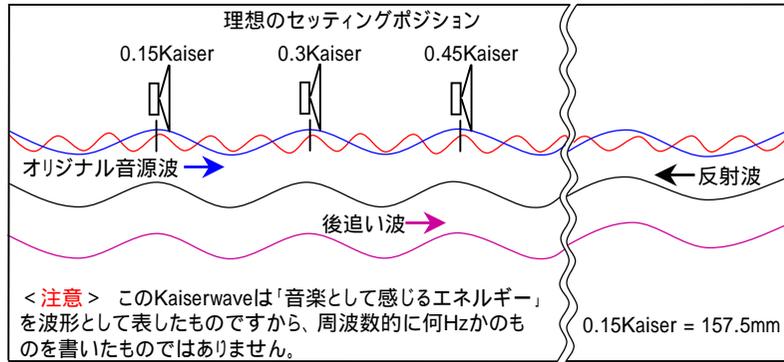
E-mail info@rosenkranz-jp.com

スピーカーセッティングには手間が必要

元々部屋が「カイザーウェーブ」に合った寸法で作られた物であれば、その部屋の端から計ってやれば簡単に済む訳です。しかし、実際にはそうではありませんので、面倒でも3者の波(オリジナル波、反射波、後追い波)の折り合いのつくポイントを見つけてやらなければならないのです。ですから、基本的には耳に頼るしかありませんので、その所はご理解頂きたいと思ひます。

カイザーゲージでスピーカーセッティング

今現在スピーカーが置かれている任意の位置を基準に音を測ります。音を測るとは？即ちどんな音を耳で感じ取る作業です。0.15カイザー(157.5ミリ)毎に音が良く感じる波のように繰り返す周期性を持っている事を提唱しているのが「カイザーウェーブ」なのです。



壁から測るのではありません

まず初めにスピーカーの後ろでも前でもどこでも結構です。測りやすい所にカイザーゲージの青い山を合わせます。後でそこを起点に前後に移動させますので、どちらの方向にも青い波が3波ぐらいは測れるようにしておいて下さい。

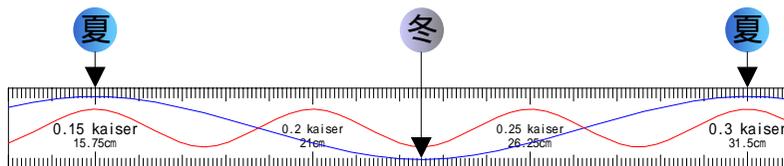
本来はエネルギーの起点から

スピーカーのコーンの付け根の近い所のある場所に、へそに相当するようなエネルギーの起点になるところがあるのです。これはスピーカー毎に位相軸が違いますので、特定する事が難しく測りにくい為に、測りやすい所から測って下さいと言っているだけです。映像のプロジェクターで例えて言うなら3波の光源軸に相当するようになって頂ければ結構かと思ひます。



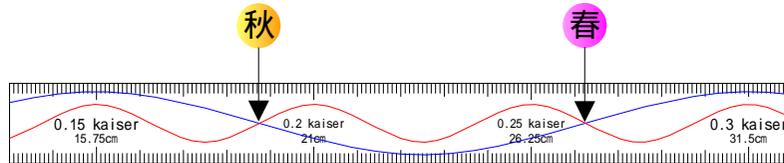
正反対の音を先ず見つける

次にこのゲージの使い方、読み方を説明いたします。山に合わせ込んだところを仮に「夏」と思ってください。谷間になる前後の半波長の位置が「冬」と思ってください。この山と谷の音の関係は正反対の性格の音を示します。例えば低音が膨らみがちなのと、やせ細った低音の関係のように同じスピーカーなのに0.075カイザー(78.75ミリ)位置が前後しただけでまるで正反対の表情に変化するのです。高音を例に挙げますと寝ぼけたようで抜けが悪い音だったり、耳を差すようなキツイ音だったりします。



正反対であっても良く似た春と秋

同じ半波長ずらしてもほとんど音の変化を感じない場合もあります。それは貴方の耳が悪いのではなく、「春」と「秋」のように季節が似ているのです。こうして最初の位置が春若しくは秋に近い所に置かれているとしたら、更にその半分、即ち1/4波長のところに大きな音の違いとなって感じる「夏」と「冬」が存在しているのです。この2パターンを試みて頂ければこの4ヶ所の中に理想に近いと感じるポジションが必ず見つかるはずで



この4者の中で音の良い勝ち抜き組み二人の間の音を聴いて追い込んで行けば、理想と感じる音のバランスに近づくはずで

そして最終的に1ミリの違いでも聞き分けられるように誰でもなれますので、面倒でも根気良く頑張ってください。何回も勝ち抜き合戦を勝ち抜いたポジションがその部屋とそのスピーカーとの3和音構成の美しいところ

です。その見つけたポジションが「カイザーウェーブの青い山」のところに相当するのです。従いまして、その場所に改めてカイザーゲージの青い山を合わせ直して頂きますと、先の山と後ろの山にも音の良い場所が存在していますから簡単に探し出す事が出来るようになります。

貴方の部屋に於ける幕の内最高優勝は？

何ヶ所もある青い波の山は相撲でいうところの勝ち越し力士と思ってください。同じ勝ち越し組みでも「8勝なのか？、9勝なのか？、はたまた12勝か？、あるいは全勝のポジションなのか？」探し出して下さい。その理想のポジションにピンポイントで入った時は本当に素晴らしい音楽が部屋中に満ち溢れます。それを手にするには何よりも根気が一番です。

お礼とお願い

この度はカイザーゲージをお買い上げ下さいまして誠に有難う御座います。貴方の豊かなアイディア次第で新発見が出てくれれば

幸いです。またその内容を教えてくださいと嬉しく思ひます。そして、みんなで音楽の喜びを分かち合えればこの上ありません。

Kaiser Sound 貝崎静雄